市民ネットは市民自治を目指す地域政党です

県議会議員
山本友子

市議会議員
小沢 みか

市議会議員
森山かおる

NO.109 2017.秋号

ホームページは
ここから

いちはら 市民ネットワーク通信

e-mail:i.shimin-net@muse.ocn.ne.jp
ホームページ http://ichihara-net.com/

発行：いちはら市民ネットワーク　代表　桑田尚子
〒290-0073 市原市国分寺台中央7-1-5 C1 ☎:0436-21-1907 Fax:0436-21-9073

市原の医療が危うい?!

市原市内には地域医療の拠点として、3つの病院が地域にバランスよく配置され、各々大きな役割を果たしています。そのうち、南市原の地域医療を担う千葉県循環器病センターが、現在医師の削減により危機に瀕しています。

帝京大学ちば総合医療センター（姉崎）

今年４月に、救命救急センターに指定されました。これまでの二次救急に加え、高度な救急医療を24時間体制で提供する**三次救急医療**が可能になりました。

一次救急：帰宅可能な患者
二次救急：手術入院が必要な患者
三次救急：重篤な患者

市民の生命を守る３基幹病院

千葉ろうさい病院（辰巳台）

「地域医療支援病院」「がん診療連携拠点病院」「認知症疾患医療センター」に指定されています。市内の基幹病院として、救急医療はもちろん地域医療でも大変重要な役割を果たしています。

千葉県循環器病センター（鶴舞）

脳卒中専門のお医者さんが減っちゃう!

循環器病センターの脳卒中専門医７人のうち、今年10月に２人、更に来年４月には２人が、ほかの病院に移ってしまいます。これまでは脳卒中の患者さんに対しては24時間365日対応できたのですが、今後は、週３日は夜間対応ができなくなります。その場合は、「帝京大学ちば総合医療センター」か「千葉ろうさい病院」その他の病院に搬送されることになります。

循環器科、心臓血管外科は県内屈指の専門医がそろっており、その他の診療科もありますが、すでに呼吸器科、整形外科、眼科の常勤医師がいません。しかし同病院は南市原にとって、なくてはならない大切な病院です。南市原の地域の人達と共に、同病院の必要性を強く訴えていきます。

◆市民と一緒に考えよう◆

今後の市原市の医療・福祉は、在宅医療を進める地域包括ケアシステムの進展が大きな柱です。しかしまた、いざという時の病院も不可欠です。

地域の病院をしっかり守っていくためには、市民自身が病院や医療に深い関心を持つことが大切です。今後も皆様に情報を届けます。

コラム

改憲に突き進むアベ丸の暴走を止めよう！

県議会議員　山本友子

選挙カーの声は雨でかき消され、街頭演説中もずっと傘が手放せない、投票日には台風直撃、という悪条件の中でのつらい選挙戦でした。（私もお手伝い）

結果は、改憲勢力が、憲法改正の発議に必要な3分の2（310議席）を大きく超えてしまいました。「共謀罪」法、特定秘密保護法、安保法など、ろくに審議もせず強行採決を繰り返してきた安倍総理が、今後は、北朝鮮の危機を煽り改憲に本腰を入れてくるだろうと思われます。しかし実は、森友・加計学園問題の真相究明も、未だなされていません。

一方で、今回の突然の解散・総選挙によって、筋を通す、ぶれない野党が公示日直前に誕生しました。そして千葉3区（市原・緑区）でも、野党共闘により私たちの想いを託す議員を誕生させることができました。

安倍総理を船長とする一見立派なアベ豪華客船は、「戦争の出来る国」をめざしています。そんな中であっても、信頼できる少数精鋭の野党議員は小さな複数のタグボートに乗り込み、アベ丸の暴走を食い止めてくれると信じます。

私たちも政治を監視し、地域から声を上げ続けましょう。

9月市議会　代表質問

ブログで活動を報告

市内全体をミュージアムと捉えた「いちはら歴史のミュージアム事業」。6月に計画案が示されるや否や、数か月後には拠点となる博物館の建築設計に入るというのです。建設には大賛成ですが、余りにも早急な進め方には疑問を感じざるを得ません。

市原市議会議員
森山　かおる

いちはら歴史のミュージアム事業計画

待望の博物館が市原に！

場所は武道館の裏！

市原市には「王賜銘鉄剣」が出土した稲荷台1号墳を始め、上総国分尼寺跡、上総国府推定地などの歴史遺産がたくさんあります。

これらの貴重な歴史遺産と地域で行われる伝統文化などをつなぎ、その魅力を市内外に発信するための拠点として博物館（仮称・いちはら歴史館）が計画されました。

しかし、場所が問題

計画案では、博物館は埋蔵文化財調査センターの横に増築することになっていますが、センター自体が今でも市民にはほとんど知られていません。そのうえ公共交通アクセスも不便でJR五井駅からのバスは1日9便、八幡宿駅からは5便しかありません。

「魅力を発信し交流人口の拡大につなげる」とうたっているのですが、この場所で市外から人を呼び込めるのでしょうか。観光資源として活かし、多くの人に訪れてもらうためには、場所の選定を含め、観光振興の視点を取り入れるよう要望しましたが、計画は当初のまま決定されてしまいました。

市民への説明を

費用は億単位にも上るのに、市民には全く知らされていないことも問題です。

市は公共施設の統廃合や維持コストを抑えるために「公共施設再配置基本方針」を策定中です。市民の理解を得るために地域懇談会を実施していますが、この計画こそ、市民への説明が必要ではないでしょうか。

―決算審査より―

福祉分野に専門職を

高齢者や障がいをもつ方、またその家族にとって相談窓口は心の拠り所になるはずですが、「状況を説明して理解してもらえたと思ったが、1年後には担当者が代わっていて又説明しなければならなかった」「担当者がいないのでわからないと言われ、翌日にまた行かなければならなかった」など、不安の声を聞いてきました。

現在の人事制度では職員の異動があるため、継続性と専門性が養われにくいのです。

そこで福祉分野において、国や県の制度にも熟知した専門職の育成を求めました。

9月市議会　個別質問

ブログで活動を報告

少子化や待機児童の問題が全国で深刻化していますが、市原市の取り組み状況はどうでしょうか。安心して子育てができる環境を整えずに、地方創生はあり得ません。出産・子育て支援にしっかり職員と予算を配分するよう、議会で訴えました。

市原市議会議員
小沢　みか

子どもたちの未来のために　もっと人と予算を

ネウボラは始まったけど、保健師が足りない！

保健センター内に子育てネウボラセンター相談専用ルーム MOM(マム)がオープン

「ネウボラ」とは、かかりつけの保健師などが、妊娠時から子どもの就学まで切れ目なく相談を受け支援する仕組みで、近年全国に広がっています。

「いちはら版ネウボラ」は、地方創生の目玉として今年度から本格スタート。保健センター内にネウボラセンターも設置されました。

しかし、新たに採用した保健師はわずか嘱託1名。

ネウボラは、顔なじみの担当者によって生まれる信頼が支える仕組みです。この体制ではあまりにお粗末で、早くも看板倒れとの声も上がっています。

保育コーディネーターもいない？

同様に、待機児童対策として保育課窓口に保育コーディネーター（保育施設などの情報の提供や、入所できない場合のアフターフォローなど）が配置されていましたが、市は昨年度から止めてしまいました。

1歳から2歳児の保育希望は想定外の増加

昨年度の保育希望は、3歳児未満で実質167名も定員をオーバーしました。

また、幸い入所できても「引越しで保育所が遠くなった」「兄弟バラバラなので同じ園に通わせたい」「園と相性が合わない」などの理由で転園申請をしたが移れない、という『転園待機児童』は、少なくとも100名以上に上ります。

幼・保に通う障害児や「気になる子」への支援体制は

市内には、特別な支援が必要な子どもが一学年に約120名と推測されますが、保育園や幼稚園で職員の加配など行政の支援を受けられているのは、わずか20数名。他の子どもたちは、実質的に各園の裁量に任されている状態です。

出産・子育て支援に力点を置いた取り組みを

子育て支援は市の総合計画でも重点施策とされていますが、市の取り組みにはまだまだ弱さが見られます。

人口の減少を食い止め、地域を活性化させるためにも、出産・子育て支援に軸足を置いたメリハリのある市政運営を求めます。

山本友子　県議会報告

　衆議院解散・総選挙をはさむ９月県議会となりました。循環器病センターを含む県立病院改革プラン、障がい者の入所施設袖ヶ浦福祉センターのあり方、再生土に対する相次ぐ請願が議会の大きなテーマとなり、討論しました。

ブログで活動を報告しています「てくてくともこ」

あの痛ましい事件から4年 障害者福祉施設・袖ケ浦福祉センター

袖ケ浦市に重度知的障がい者の福祉施設、袖ケ浦福祉センターがあります。成人を対象とする更生園と、主に18歳までの障がい児のための養育園に分かれていますが、虐待死事件を起こした同センターの改革は道半ばです。

袖ケ浦福祉センターの養育園（50 人）。一方更生園は 82 人が入所、築 50 年が経過し、老朽化している。

　4年前に19歳の青年の虐待死事件があった袖ケ浦福祉センターでは、再発防止のための研修の充実などの改革プランが進行中です。県社会福祉事業団との契約終了の今年、これからの5年間の管理を任せる業者を改めて募りましたが、応募したのは事業団だけ。更生園では、きめ細かな支援が出来るように小規模なグループホーム化も検討していますが、未だ実現していません。

　施設も老朽化しています。小規模分散型施設への移行と改築を同時に行うという大胆な改革を進めなければならないのに、同じ事業団にさらに5年間、管理を任せることは、またしても改革の手が緩むのではないかと心配です。

　総額７億４千万円の県費が投入されている同センターの改革は、事業団任せにすることなく、県障害福祉課が直接関与して、入所者・保護者にとって真に安心できる施設へと変えてほしいと強く訴えました。

再生土の規制を求めて条例制定が急発進！

　県内各地で残土・再生土の問題が多発し、成田市の悪質な残土の不法投棄、匝瑳（そうさ）市や佐倉市の再生土の埋め立てに対して住民が悲鳴を上げ県議会への請願が相次ぎました。佐倉市神門（ごうど）地区では、激しい悪臭にたまりかねた住民が掘削調査や汚染物除去を求めています。住民は、行政の指導にも従わない再生土の埋め立てに対して、**指針**より厳しく再生土を規制する**条例**の制定を求めています。請願にはすべての議員が賛同しました。

佐倉市神門地区の再生土埋立地、激しい悪臭を放つ汚染水の水たまり

いつの間にか再生土の山！

新たな巨大な再生土埋め立て中の現場（鶴舞）

　再生土埋め立て箇所は県内１４２ケ所。そのうち昨年9月の指針制定後の埋め立て箇所は82ケ所ですが、なんとその後も県の指導に従わない現場が58ケ所（計画書未提出、構造基準違反、看板の未設置など）もあります。そのうち市原市は3分の1を占めています。

　オリンピックやリニア関係の工事で、千葉県に持ち込まれる再生土は今後ますます増えます。産廃が混入した残土や再生土は違法であり、早い段階で持ち込みを中止させること、また県警との連携を強化すること、建設汚泥を中間処理する業者名も明らかにすること、などを要望しました。県も再生土埋め立てに関する条例化を約束しました。一日も早い条例制定を求めます。

ネットの会員と共に調査・作成した2018年度予算要望書を副知事に提出しました。
子育て支援、環境対策、地域包括ケアシステムの普及など盛りだくさんです。　（10/12）

市民ネットのお知らせ
（月～金10:00～17:00）
連絡先　21－1907

「まちづくりの集い」お待ちしています
県議山本友子・市議小沢みか・森山かおるが、地域に出向いて皆様の声をお聞きします。
11 月　8 日(水)　　若宮地区　　　13 時より
＊詳細はお問い合わせください。
11 月 10 日(金)　　飯沼公民館　　10 時より
・予定　2018 年 1 月　ちはら台

市民ネット事務所で開催しています。

◆DVD 上映会**「ようこそボクらの学校へ」**
11 月 15 日(水)10 時～12 時
ジャーナリストの故後藤健二さん編集の映画、中東地域の子ども達の取材レポート。戦争と平和を考えます。

●暮らしなんでも相談　議員が対応いたします
毎月　第4月曜日　10:00～16:30
・予約も受け付けています。
次回予定　11 月 27 日　12 月 25 日　1 月 22 日

●折り紙教室「折り紙名人」　福田進一氏
毎月　第 3 火曜日　13:00～15:00
次回予定　11 月 21 日　12 月 19 日
参加費　100 円（震災復興支援に募金）

●おしゃべり介護喫茶
毎月　第 4 金曜日　13:30 オープン
店主　喜多 庸子さん（介護歴 19 年）
次回予定　11 月 24 日　12 月 22 日　1 月 26 日

●アートギャラリー
11 月 手作り手芸（日常のうるおい）　中島己枝子
12 月 風景画展（水彩・油彩）　田村鈞司
2018 年 1 月 油絵展　西島隆史

☆あなたの作品を展示しませんか
会場の使用料は無料です。作品展・サークルの発表会などにご利用ください。
期間は 1 か月　月曜～金曜　（土・日・祝日休館）
閲覧時間　10:00～16:30
委託販売できます。

おしゃべり介護喫茶　店主のつぶやき 3
～市民ネットの事務所で第 4 金曜日に開催しています～

「庸子ちゃんは誰？」

喜多庸子さん
（介護歴 19 年）

先日、母が「デイサービスでお友達にお父さん（夫）の名前を聞かれて、答えられず恥ずかしかった」と言うので、「朝、仏壇に手を合わせる時に、お父さんの名前を声に出して言う事にしよう」と提案して、毎日二人で父の名前を唱えているうちに、なんとか父の名が出てくるようになり、やれやれ。

その時、私は何げなく「お母さん、私はあんたの何にあたるの？」と聞いてみた。すると「妹」と言うではないか。「あんたの妹は、とっくに亡くなっているでしょう!!」と言うと「あれ？じゃあ、あんたは誰だっけ？」なんて答える。「よくも、よくも、私の人生の大切な時間を使わせておいて。私を解らないなんて、良く言えるな!!」と頭に血が昇ってしまった。

数日間の「庸子ちゃんは誰？」の押し問答で疲れ果てた私はフッと思った。私の住んでいる正常な世界では、介護してくれる娘を忘れるなんて、とんでもない。
しかし母の認知症の世界では、血縁かどうかなんて関係ないのかも知れない。自分にとって大切な人は、心が繋がっている人なのだと。母が私の事を娘と解らなくても「庸子ちゃんがいないと生きて行けない」と頼ってくれているのなら、それは母からの私・庸子ちゃんへの最高の褒め言葉じゃないか。まあそれでいいさ。それが私の今までの介護の証なんだから。なんて考えたら少し救われた、この頃の私です。
庸子ちゃんも大変!!

日々の介護の話に盛り上がる。みんなここでリフレッシュできたらいいな。

市民のツイート　ここが変だよ市原市

議会棟で迷子になっちゃった！
（国分寺台Kさん）

広報「いちはら」に常任委員会の傍聴予定のお知らせがあったので議会棟へ行った。入口を入ったホールはシ～ンとして誰もいない。受付も無ければ案内板もない。近くの１階と２階をウロウロした。日時を間違えたかなと思い、市役所の案内へ戻って確認して、やっと現場へ着いた。わかりにくい！

２～３人の傍聴者らしき人がいたが、案内板も担当者もいない。これって変じゃん。本当に市民に開かれているのかな。民間会社だったら悪評がたって、一発で倒産じゃん。

さらに本当に市民のためを思うなら、当日の資料をくれたっていいんじゃないの。県議会ではくれるのに。帰ってからみんなに見せたかったな。

☆市民のツイート募集中、あなたのつぶやきお待ちしています。

もう一言　言わせて

行ったことありますか？
公共複合施設「サンプラザ市原」

五井駅西口から直結している「サンプラザ市原」は、開設から20年。ピーク時の利用者は延べ28万人（平成15年）から年々減少し、テコ入れの大規模改修にも関わらず、13万人まで落ち込んでいます。
昨年度は、管理運営委託に１億4200万円、修繕や光熱費などに8400万円、血税が投入されました。改札口につながる通路（ペデストリアンデッキ）も老朽化が激しく改修中です。民間移譲など抜本的な対応策も必要ではないでしょうか。
（決算審査より）小沢みか

いちはら市民ネットワークの活動は…

1. ネットの議員は、企業･団体とのしがらみがないので、きっぱり大胆に発言できます。
2. 議員報酬の多くを市民ネットの活動費に。
3. 一人ひとりの声を大切にして市民参加の政治をつくります。

市民ネットワークの会員募集
年会費　2,000 円
会費振込先　いちはら市民ネットワーク
郵便振込口座　00130-3-575259
ゆうちょ銀行 店番058 普 2941343